令和４年度「集落自主活動に係る伴走支援事業」業務委託実施報告書

〇事業名称　　令和４年度「集落自主活動に係る伴走支援事業」
〇実施期間　　令和４年７月 25 日～令和５年２月 28 日
〇対象集落　　郡山市逢瀬町　郡山市逢瀬町　逢瀬いなか体験交流協議会
〇実施団体　　福島大学　SEED to Dishes

目次

１．実施グループとおもな団体紹介
２．活動目的
３．活動内容
４．成果・今後に向けて

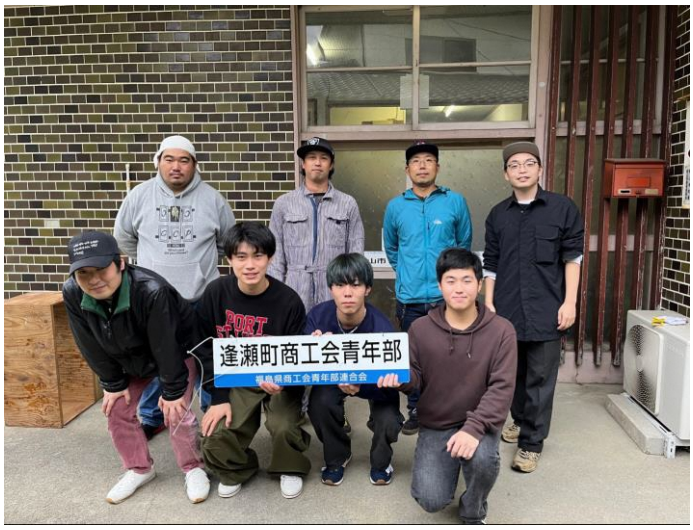
１．　実施グループとおもな団体紹介

・【SEED to Dishes】

SEED to Dishes というグループは福島大学食農学類の一年生で構成されており、郡山の農家である鈴木農場での農業実習や郡山でのマルシェお手伝い等の活動を通して農業への知見を広げることを目的とした団体。

・逢瀬町商工会

逢瀬町の商工会であり、特にイベント活動を積極的に行っている。



・逢瀬いなか体験協議会

都市農村交流を目的として設立された団体であり、主に農家民宿の活動を行っている団体である。

・逢瀬茶屋

逢瀬公園内で運営されている売店であり、地域食材を利用したキャベツ餅などの商品を販売している。

↑キャベツ餅スティック

（キャベツ餅を春巻きの皮で包んであげたもの）

２．活動目的

今回、この委託事業に参加したメンバーはほとんどが福島大学食農学類の１年生で構成されており、2018 年度・2019 年度に行っていた先輩方の活動を引き継ぐ形でこの委託事業への参加となった。逢瀬町は安積疎水の灌漑により農業が盛んな地域であり、近年は鯉の養殖や農業の 6 次産業化として逢瀬ワイナリーといった動きもみられる。しかし、人口減少や高齢化といった問題もある。その中、地域活性化に対しての意欲が高く地域内で様々な活動が行われている。そのような逢瀬町を対象地域とした私たちは今年度の一つの目標として地域の課題、魅力を見つけることとした。

３．活動内容

今年度の活動は二回の現地調査と逢瀬の祭りイベントへのお手伝い、意見交換会を行った。

〇第一回現地調査

ポケットファーム逢瀬、逢瀬茶屋、なかむらさんちでの聞き取り調査を行った。

１．　ポケットファーム逢瀬

・地域の農家の奥さん方が中心となり運営している直売所であり、地域の農家の朝どれ野菜を他の直売所より安く販売していた。そして、味噌、エゴマ塩、キャベツ餅といった加工品も多く販売していたため、冬花衣、冬甘菜のブランド野菜との組み合わせの商品開発ができるのではないかという意見も出た。

２．　逢瀬茶屋

・今年で９年目を迎える公園売店であり、客層は年齢層が幅広く、特にファミリー層が多くみられ、公園に訪れる人も多く利用している。キャベツ餅といった地域食材を利用した商品も販売している。

・逢瀬茶屋の店長である佐藤さんにお話を伺ったところ、県外や遠方からのお客さんのためにキャベツ餅のお土産化としてフリーズドライにする取組が進んでいるということだった。

３．　なかむらさんち

・なかむらさんちとは農家である中村さんが行っている農家民宿である。

・加工場を持っているため、商品開発をする際は使用可能というお話を聞くことができた

○第二回現地調査

・逢瀬ワイナリーで開催されるクリスマスマーケットへ訪れた方へのインタビュー調査とイベントのお手伝いを行った。

インタビュー調査

・今回のインタビュー調査では計６組の方へお話を聞いた。

・キャベツ餅とイベント関係、そして逢瀬町についての質問を中心にインタビュー調査を行った。

それぞれ、以下のような意見があった。

１．猪苗代出身の女性

・イベント初参加

・キャベツ餅は素朴という印象がある。

・イベント会場まで距離があり、あまり来ない。

・マルシェに興味がある。

・キャベツ餅は家で作りやすいため、買おうとは思わない。

２．本宮市出身の男性

・逢瀬ワイナリーのインスタグラムで知り、参加した。

・逢瀬といえば、ワイナリーや蕎麦屋の印象。

・キャベツ餅やキャベツ餅スティックは好印象だった。

３．郡山出身の男性

・逢瀬ワイナリーのインスタグラムで知り、家族で訪れた。

・一度、クリスマスマーケットに参加したことがあった。
・キャベツ餅の問題点は認知度の低さにあるという意見があり、具体的にはビジュアル化できないところやニュースが 6 時台に放送されるため、仕事で帰りが遅い男性には特に認知されないのではという
・逢瀬といえば、逢瀬公園が印象的であり、運動が趣味の方にはぴったりで、逢瀬公園は風呂も完備しているため、洗い流してから帰宅することができる。

４．福島大学生　男女二人（福島市といわき市出身）
・インターネットから情報収集し、このイベントを知った。
・キャベツ餅は知っていたが、キャベツ餅スティックは知らなかった。

５．郡山市出身の家族
・郡山市の職員である男性は地域活性化事業に関わっており、そこから情報を得て、今回参加した。
・キャベツ餅は知っていたが、キャベツ餅スティックは知らなかった。
・キャベツ餅は家庭で作れるぐらいのハードルの高さ
・逢瀬といえば、自然やワイナリーが印象的。
・家庭で作る文化を作るほうが大事なのかもしれないという提案があった。

６．逢瀬町在住の家族
・キャベツ餅は知らない。
・キャベツ餅は買おうとは思わない。

➡〇わかったこと
・キャベツ餅の認知度の低さ
・逢瀬までの遠さ
・SNS での呼びかけがうまくいっていること

そのほかにも…
逢瀬茶屋の方とも話し、キャベツ餅はフリーズドライではなく冷凍でお土産化を進めていることが分かった。

〇意見交換会

・逢瀬商工会の経営指導員である鈴木さんに逢瀬町の現状と課題についてお話を伺った。
・逢瀬の課題は高齢化、交通の便の少なさ、人口減少があげられた。
・逢瀬の強みは経営者・個人の結びつきが強いこと
・学生には逢瀬について発信することで関係人口の創出をしてほしい。

↑逢瀬公園祭りでの逢瀬茶屋で手伝いしている様子

4．成果・今後に向けて

今年度は地域の現状を知るため、聞き取り調査を中心に行った。また、祭り等のイベントのお手伝いで地域の方との交流を深めた。今年度の成果は、逢瀬の課題として人口減少や高齢化のほか、売り出そうとしているキャベツ餅の認知度の低さが分かったことやキャベツ餅のお土産化プロジェクトについて話し合えたことがあげられる。
そして、今後に向けて行っていきたいことは「キャベツ餅のお土産化事業を進めること」、

「キャベツ餅や逢瀬の魅力を SNS 等を利用し、発信していく」、「学生の立場から逢瀬町に貢献する」ことの三つになる。
今年度は目標であった地域の課題を見つけることと、その課題解決のために今後どのように動いていくかを決定することができた。